



企画・取材・発行  
射水商工会議所 魅力発信プロジェクト  
(事務局) 射水商工会議所  
〒934-0011 射水市本町2-10-30 クロスバイ新湊 2階  
TEL: 0766-84-5110

発行日  
2025年3月31日

引用・参考文献

「新湊市史」新湊市史編さん委員会  
「しんみなとの歴史」新湊市  
「いみずの神社・寺院」射水地区広域圏事務組合  
(人物の参考文献は、各紹介ページに記載)

写真提供

射水市新湊博物館  
一般財団法人 高樹会

協力

取材にご協力いただいたみなさん、  
一般社団法人 射水市観光協会

取材・制作

株式会社 ワールドリー・デザイン

印刷・製本

有限会社 明野印刷

# 新湊さんぽ

人から紐解く  
地域の歴史・魅力

思いと情熱が  
時代を超えて  
土壌を育む

# この人が居たから。

ときに鮮烈な体験として、  
ときにほのかな記憶として、響くもの。

富山県射水市新湊地区は、古くから漁業や交易が発展することで栄えてきた湊町。この地の歴史を数百年単位で捉えてみると、海からもたらされる様々な恵みと試練をベースに、技術や産業の変化に合わせた生活や文化が、その都度、花開いてきたことがわかります。最初はたった一人で始めたことも、徐々に仲間や弟子を増やし、より多くの人の手や目にふれ、たくさんの人に愛され、大切に伝えられてきました。注目すべきは、血族や師弟間での継承によって守られる確固たる技術や伝統以外にも、常に地域の中で、無数かつほぼ無意識に行われているリレーがあるということ。何百年も続く祭りや建物、作品、書類などは、先人たちの思いの結晶や創意工夫の結果です。これらにふれることは、ときに鮮烈な体験となり、ときにほのかな記憶として、時空を超えて確実に何らかの影響を受けることでもあります。先人たちの息づかいを感じられる場所やものが残っているという歴史文化の土壌の豊かさを、改めて噛み締めましょう。

さあ、でかけましょう。先人たちと対話する旅へ！👤

## 高周波文化ホール Map B-1

### ステンドグラス「陽光」から注ぐ光

大伴二三彌の大作「陽光」。「透明な天窓からの自然な陽光がステンドグラスにそのまま吸いこまれ、時のうつろいととも光と色彩の投影がさまざまに変化して、地上にも言われぬ夢幻の世界を現出する」との説明の通り、時間によって光の落ちる場所や色合いが変わります。見上げれば郷土愛たっぷりの鮮やかな色ガラスの集積、足元にはやわらかに混じり合うとどりの光。ある人の活動や作品が、世界の片隅を照らし、その光は密やかであっても確実に、誰かに届き心を動かし、また新たな動きや表現が生まれる。光の求道者・大伴二三彌(18 ページ参照)の、まっすぐな郷土愛と真理にふれる美意識を体感できます。しびれます。

## 歴史と人々のざっくり解説

### ①平安～鎌倉時代(約1,000年前)

漁業が主要産業でした。越中国司・大伴家持が約5年の任期の間に詠んだ「万葉集」に編纂されている歌4,516首のうち大伴家持のものは473首。そのうちの約半分・220余首が越中で詠まれたことで景勝地となりました。後世これらを尋ねに、松尾芭蕉をはじめとした歌人や文化人が訪れています。

### ②中世～戦国時代(約500～700年前)

北陸道の一部として交通の要衝となり、戦国時代には地元の領主や豪族が地域の統治にあたりました。海運や漁業が地域経済を支え、越中の政治経済の中心となる「越中守護所」が置かれました。越中守護・畠山氏の重臣であった神保氏を頼って、第10代鎌倉幕府将軍・足利義材が約5年滞在し「放生津幕府」を樹立。この地が日本の中心になりました。

### ③江戸時代(約300～400年前)

江戸時代に入ると、新湊は北前船をはじめとする海洋交易の地として繁栄しました。商人や船主たちが地域経済を支え、農業や漁業との連携が深まりました。人口が増え町がでぎ、神社仏閣が栄え、曳山祭りなどの町民文化が花開きました。彫刻の矢野家、宮大工の高瀬一門、算学家・測量家の石黒家などが活躍しました。

### ④近現代(明治時代以降)

北前船で得た莫大な富は地域社会の経済的基盤や文化の礎を作りました。実業家でもあった政治家たち(その多くが銅像になっています)の貢献により、2度の世界大戦を経て近代化への対応や国際港湾の整備などが進められ、漁業や工業が大きく発展しました。一方、文芸・芸術分野でも、多くの詩人や画家が地域の美しさを作品に表現。地元の学校などで教鞭をとる傍ら、創作活動を行った人々が意外に多いことに気付かされます。

# 新湊のひと あつまるあつまる

常に心に祭りあり

## まつん命

新湊の人々が心から楽しみにしているもの…それは、「まつん」（祭り）。春の獅子舞と秋の曳山祭り。シーズンオフも常に心に祭りがあり、準備や練習を怠らない。飲むと思わずお囃子や掛け声が出る。祭り当日は恐ろしく早起き。キリリと法被を着て町中を練り歩く姿は、水を得た魚のようでもある。

知らぬうちに  
祭りで体得！

いき※  
粋

漁師町×町人文化が融合した新湊曳山祭りは、電気もインターネットもない江戸時代から続いている地域の宝。曳山を曳くことは「ヒッキヤマにつながら」と表現される。つまり、時代を超えて過去の人々とつながり、時空を超えて崇高な何かとつながる体験を年に一度必ずしているのが新湊の人々だ。圧倒的な歴史や存在を感じながら、自分の美しさや誇りを発見しつつ威勢よく振る舞うって、まさに「粋」としかいいようのないもの。祭り好き全員、粋！

※哲学者の九鬼周造は『「いき」の構造』として「運命によって「諦め」を得た「媚態」が「意気地」の自由に生きるのが「いき」である」と指摘した。

え？定刻ってあったっけ？

## 新湊時間

集合や開始の時間は一応知らされたはずだが、各々の解釈と状況の違いから幅ができる。「やわやわ」（ゆるゆる、ゆっくりという意味の方言）と集まってくる感じが新湊っぽい。人が集まらずなかなか始められなくても「新湊時間やから」とイライラせず待つところも新湊っぽい。

楽器や歌、舞いはお手のもの

## 芸達者

普段はおとなしい人が見事に舞う天狗役だったり、のんびりした印象の人が笛太鼓の名手だったり。祭りに関わっている人は基本的に芸達者。自分からは言わないけれど、舞踊、音楽、演劇、詩歌、お茶、お花、書などを嗜む隠れ文化人ばがいっぱい。芸術や芸能を主体的に楽しむ姿勢がベースにある気がする。

だらかかついさぎよい！

## 大胆不敵

「板子一枚、下地獄」との漁師の言葉のように、自分の力ではどうすることもできないことをしっかりわきまえつつ、大事なものが何かわかっている人が多い印象。周囲の空気に左右されずに、自分の信念を貫くための判断が早い。

気遣いレベルが高い

## 洒落っ気 茶目っ気

漁師や商店をはじめ、自ら事業を営む人々が昔から多かったためか、見た目や振る舞いにもちょっとしたセンスや遊び心を感じさせる人が少なくない。身なりや服装だけでなく、誰も見ていないところの除雪や掃除を買って出る人、家の前に美しい花を咲かせている人など、よく見るとかっこいい振る舞いをしている大人にそこここで遭遇する。サービス精神旺盛で必ず笑わせてくれる人も。いずれにせよオシャレなのである。

変わることを恐れない

## 進取の気風

古くから交易で栄えた湊町であるためか、外からやってくるものや新たなものにポジティブな人が多い。閉鎖的と言われがちな富山県の中では珍しい、開放感やフランクさが漂う。良いものを取り入れたいという意識が強いいためか、変わるということあまりネガティブに捉えていない印象。一方、使っていないものはすぐ壊すので、石以外の資料は残りにくいかも。

本質をとことん追求！

## 職人氣質

この冊子で紹介した人物は一人残らず、あるテーマや素材と真摯に向き合い、粘り強く本質を求めてきた人々。形式的なことを嫌い、必要であればキツバリと断じる…誰よりも考えて実践してきたからこそその凄みあるエピソードが満載だ。何かを探求し続けている人は、地位や肩書にへこへこせず、誰にも分け隔てがない。

さすが！距離感つかんでる

## ある意味、都会的

隣の家と壁を接して連なる住宅密集地の暮らしは、ある意味、都会的。近隣の人々の生活音や匂いなども共有してしまうため、知らず知らずのうちに干渉しすぎない配慮を覚え、人がたくさんいる中で自然と鍛えられるのか気遣いが身についている。また、人に合わせて瞬時に距離感を掴み、求められる役割を演じ分けられる人が多い印象。幸か不幸か、噂は瞬時に広まる。





放生津を代表する天才彫刻家

や の た か み ち

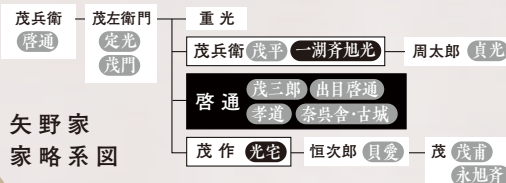
矢野啓通 1822-1886

Takamichi Yano と 矢野一族  
& Yano Family



矢野啓通は法土寺村(二の丸町)の出身。放生津城の前にあった「城屋」と呼ばれる加賀藩御蔵番の家に生まれました。幼い頃から彫刻を学び「彫りの啓通」と呼ばれるほどの天才彫刻家となりました。

神社仏閣の装飾・木像制作に広く携わり、その力強く晴れ晴れとした作品は、今でも、放生津八幡宮をはじめ新湊エリアの様々なところで見ることができます。その腕を見込まれ加賀藩の能楽堂で使用する能面も刻み、1858(安政5)年には宝生流の面打師としての免許皆伝を受け、能面制作のみならず模作・鑑定なども請け負いました。加賀・前田家の多くの調度品も制作しています。また、上京し1873(明治6)年には宮内省から御物謹製の依頼を受け、天皇御璽の御印台など数十点を献上しました。



1 放生津八幡宮の狛犬(市指定文化財)【啓通作】

1845年2月、放生津の大火によって焼失した放生津八幡宮の再建に際し、啓通は各地の神社をめくり多くの狛犬を研究し、彫り上げたという楠の寄木造りの大狛犬。シンプルかつデフォルメされた深い彫り、安定したたくましい四肢を持ちながら温かみのある容貌は、魔除けの靈獣ながら愛嬌たっぷり。焼失してから爆速で彫って大火の翌年には奈呉町の釣方漁師連中の申し出により奉納された、若き日の啓通の傑作です。ちなみに、八幡宮の再建は1863年。18年の歳月がかかりました。一般的な「阿・吽」の配置が逆になっているのも興味深いですね。



2 氣比住吉社の狛犬(市指定文化財)【啓通作】

1846年8月に奈呉町の釣方漁師連中から奉納された、松の寄木造りの狛犬。前年に焼失した放生津八幡宮の境内にあった松を使ったと伝えられています。ずんぐりどっしりとした形に、力強く優美な彫りが美しい容貌をしています。



3 狸々面の絵馬(放生津八幡宮)【啓通作】

宝生流面打師として活躍した啓通は多くの能面も制作しています。一般公開されているものとしては、放生津八幡宮拝殿にかけられた謡曲絵馬があります。狸々はお酒が好きな、猿に似た妖怪。コミカルな謡曲が有名です。



4 西奈呉の獅子頭【茂平作】

漁師さんの同業者組合(潮連)が持つ獅子頭は、啓通の兄である茂平の作。「一湖斎旭光」という茂平の作家名が箱書きに残っています。



放生津八幡宮 Map B-1

746年、越中の国司として赴任した大伴家持が、奈呉の浦(現在の富山湾)の情景を愛し、豊前国宇佐八幡神を勧請し奈呉八幡宮と称したのが起こり。築山神事、曳山神事など、地域の歴史・文化の中核を担っており、地元民から広く信仰を集めています。



氣比住吉神社 Map B-1

鎌倉時代初期からあった氣比神社に、住吉社を合祀した神社。1880年に火事で社殿を焼失した住吉社を後年合祀しこの名前に。奈呉の浦(新湊沖)の海中から出現したと伝わる住吉三神を祀っています。





国指定重要文化財  
加越能三州郡分略絵図

1825 (文政8)年に、石黒信由が作製した越中・加賀・能登の3か国(富山・石川県)の絵図。山地と平地を山麓線で書き分け、山地を萌黄色で着色。これまでの三州図を一変する精度の高いもので、伊能忠敬の日本地図とともに明治以降に発達した近代地図のさきがけとなりました。

射水市新湊博物館 Map B-3

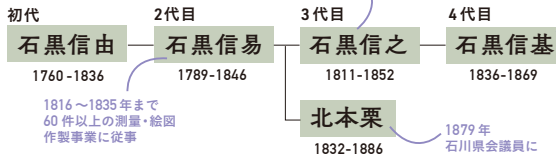
北陸が誇る和算・測量家



いしくろのぶよし 1760-1836 Nobuyoshi Ishikuro & His Family  
**石黒信由と石黒家**

1760年射水郡高木村(現在の射水市高木)生まれ。23歳で富山藩士・中田高寛に入門し和算を修得。100年以上誰にも解けなかった和算の難問を解き、『算学鉤致』に全解答を著すなど、稀有な才能を発揮しました。また、自ら工夫・改良した器具を使って測量を行い、数々の正確な地図を作製しました。1803年、測量の旅で放生津の柴屋彦兵衛門宅に宿泊していた伊能忠敬を訪ねた信由は、忠敬の天体観測を見学し、翌日は富山湾の沿岸測量に同行。59歳から加越能三洲をくまなく歩いて測量を行い、77歳で没する直前まで藩の測量を担うとともに、西洋数学や天文暦学など幅広い分野で、生涯に渡って学問を貫きました。石黒家の学問と技術は信由以降も藩に重用されました。

石黒家家略系図



1816~1835年まで60件以上の測量・絵図作製事業に従事

1879年石川県会議員に

1 算学絵馬

24歳の信由が放生津八幡宮に奉納した算額に因んだ絵馬。学業成就にご利益あり。

2 『測遠用器之巻』石黒信由著

信由の日記的な研究エッセイ。忠敬との出会いや珍しい測量道具について詳しく記されています。

3 象限儀 (1838年、高樹文庫)

道の傾斜や勾配を測るため、精密な対角目盛を刻んだ器具。これは信由の孫、信之が使っていたもの。

4 軸心磁石盤

磁石盤を回転させることで正確に子午(南北)の線を合わせられる器具。

5 唐算盤

信由が使っていたソロバン。箱に「唐算盤高樹軒」と記されている。

6 『算法渡海標的』石黒信由著

北極星を測って位置を確認したり、海水から真水を精製したりする方法がまとめられた、最強の航海サバイバルマニュアル。信由の集大成ともいえる実学の名著。



伊能忠敬  
1745年千葉県生まれ。1800年から17年間、日本全国の測量を行い、正確な地図を作った。



Map B-3

射水市新湊博物館

国の重要文化財 6,390点をはじめ石黒家の学問の足跡を示す12,000点あまりの資料群「高樹文庫」や信由が愛用した道具を収蔵・展示しています。



石黒信由顕彰碑 Map B-3

信由の生家近く、高木農村公園にあります。信由が愛用した道具「軸心磁石盤」を模してデザインされた台座に、功績を記して讀えた石碑が建立されています。



三ヶ新の道標 Map A-1

京都と東北をつなぐ街道の要所として、1859(安政6)年に立てられた道標。「越後出羽道」と刻まれています。石黒家4代が活躍した頃に流行した元禄袖があしらわれたデザイン。



「あるべき姿<sup>※1</sup>」を  
筆で探求する画僧

まき ゆう けい  
**牧有恵** 1950-  
Yukei Maki

1950(昭和25)年、射水市(旧・新湊市)生まれ。日本大学芸術学部を経て、美学校「細密画工房」にて立石鐵臣氏に師事、0.1ミリの細密画の訓練を通じて曼荼羅や東洋哲学への関心が高まり、1975年インドへ遊学。仏教を強く意識するようになり、細密画を軸とした仏画の世界の探求を誓います。帰国後は、終生の師となる仏教学者・宮坂有勝師と出会い、1977年、京都の真言宗智山派総本山智積院にて出家、得度、修行。1978年、智積院の祖山である和歌山の根来寺境内に画房「西遊舎」を構え現在に至ります。空海の言葉に「密蔵深玄にして翰墨に載せ難し。更に図画を仮て悟らざるに開示す<sup>※2</sup>」とあるように、文字や文章だけではわかりにくい教えを、仏画を通じて人々に広く伝えています。また、仏の姿を擬人化して描かれるオリジナルの「三昧画」は、遊び心溢れるやわらかなタッチが、見る人の心を一瞬でほぐし、励ましてくれると好評。写仏や三昧画の講師、ラジオDJ、講演会など多岐にわたる活動を通じて、実践的仏教を発信しています。

**西遊舎**

紀州根来の里から、画僧・牧有恵の考える「やはり、仏教はいい」を絵にした三昧画を中心として活躍するグループ。



※1「阿留辺幾夜宇和(明恵上人遺訓)より。

今、どのようにあるべきなのかを常に自らに問いかけながら今を生きているという姿勢。

※2「密蔵深玄にして翰墨に載せ難し。更に図画を仮て悟らざるに開示す(弘法大師空海『御請来目録』)より。

密教は奥深く玄妙なので文字や文章で伝えることは難しいため(曼荼羅や仏画などの)図画の力によって悟っていない人の眼を開くという意味。



**中の橋** Map B-1

欄干には牧有恵氏の筆による橋の由来や仏の墨絵などがパネル装飾されています。1650年に架けられた最も歴史ある3本の橋のひとつ。真ん中に位置していたためこの名前に。



**四十物町曳山蔵** Map B-1

2021年に新築された町民待望の曳山蔵の扉には牧有恵氏の文字が。2023年公開の映画通称「僕ラー」では、主人公ら高校生3人組が、埋蔵金発掘計画を立てる場所として登場。



**内川茶房月と兎** Map B-1

2023年、内川沿いにオープンした和カフェ。ロゴは牧有恵氏によるもの。牧さんの暖かなアドバイスを胸に、今日も元気に営業中!



社会に語りかける  
「手」の彫刻家

たけだ みつ ゆ き  
**竹田光幸** 1943-  
Mitsuyuki Takeda

1943(昭和18)年、射水市(旧・新湊市)生まれ。鉄工所を営む父・長太郎と北前船主で網元の家に育った母・悦の四男として、映画館「日吉館」と日吉神社の前、立町通りの中心で育ちました。映画や釣り、絵を描くことが好きだった幼少期を経て、新湊高校バレー部ではアタッカーとしてインターハイにも出場するほど。スポーツの道に進むとの周囲の予想を華麗にくつがえし、多摩美術大学彫刻課に進学。1966年の卒業後は同大学の教育者となり、多くの人材を指導しながら彫刻家としても活動。創作活動は10代の頃から始まりました。木彫のみならず石彫、塑像、金属とあらゆる素材を彫刻するなか、30代にして普遍的な「手」というテーマで制作を開始。48年の長きに渡り勤めた大学退職後も創作の手は緩まず、存在感と独創性に満ちた作品を生み出し続けてきました。その作品は近年、海外でも注目を集めており、ますます評価が高まっています。小さい頃から好きだったという矢野啓通作の狛犬(9ページ1参照)の堂々たる姿や高瀬一門作の立町曳山(11ページ参照)の美しさは、感動の形として竹田さんの心身に刻まれているそう。地域の文化や風習、自然環境によって育まれた感性が、現在に至るまで一貫して創作の根幹にあると語ります。



**竹田光幸木彫刻美術館**

アトリエを活用した私設美術館(東京八王子)。10~70代で制作した具象・抽象作品が、庭園および屋内に展示されています。



**山王橋** 世界で唯一の「手の橋」 Map B-1

内川に架かる最古の3本の橋のひとつ。竹田光幸氏による通称「手の橋」は1990年竣工。イタリア産の大理石などを使った「人」「心」「愛」「夢」と名付けられた4基の手の彫刻のインパクト最強。待ち合わせや記念撮影にぴったり。高欄には童謡「海」「きらきら星」のメロディーがあしらわれています。



**高周波文化ホール** Map B-1

東京・多摩川で採取された神代樺の流木で作られた竹田光幸氏の木彫刻が。小ホール入口に巨大な耳を表現した「多聞」、市民ホールに手と弦楽器が融合した「奏」が展示されています。約2千年の間、腐らず地中に埋まっていた神代樺。貴重な木彫刻に触れるのが嬉しい!

じっくりとカタツムリのように。美の心を木に吹き込む版画家

せんだ やす はる  
**泉田康治** 1908~2002  
Yasuharu Senda

1908(明治41)年、射水市作道村生まれ。県立高岡工芸高校木工課卒業後、図工の教員となります。小・中学校で教鞭をとる傍ら、木彫・彫塑・版画などの作家活動が続け、日展や光風会などの中央画壇への出品・入選を重ねました。日中は教職、夜は彫刻刀をふるい、休日には版刷りをするという多忙な日々。地元の水郷や立山連峰、越中八尾おわらなどを題材にしていましたが、真言宗大本山大岩山日石寺の磨崖仏、不動明王像の峻厳な姿に感動してからは、大岩不動を彫り続け、泉田の代名詞となりました。1952年、多色刷り木版画「大岩不動滝」を第8回日展洋画部に出品・入選。戦時中、南砺市に疎開中だった棟方志功に出会い、意気投合。1960年、棟方志功とともに日本版画会創立に携わり、後年同会の副会長も務めました。1978年には、大岩山日石寺より「居士林」に列せられ、「法眼位」を受けられました。これは、在家の信者として修行を積み、僧侶としての階級を得たということ。版画の道、約80年。94歳で逝去するまで、構図・下絵～彫刻・刷り全ての工程を自らの手で行い、妥協を許さぬ制作姿勢を貫きました。



日本画家・奥村土牛の「牛歩」になぞらえ、たゆまず精進することを泉田なりにとらえた「蛸歩」の文字が表紙に。木版画のバレンがカタツムリの殻になっている。

**法眼泉田康治作品集**

**紺屋町飾り皿**



紺屋町曳山の飾り皿。1979(昭和54)年に町内に配布された伝説の記念品。これを持っているのは、選ばれし紺屋町曳山関係者の証。



第3代新湊市長

**齊藤俊彦銅像** Map B-3

作道村長だった齊藤の功績を、同郷である泉田が形にしています。大正初期、作道村に蔓延し多くの犠牲者を出した「ワイル氏病」の研究・根絶に貢献した農学博士・遠山祐三と、村医・谷道清の功労を伝える碑が隣に。



**竹泉堂** Map D-2

1957年、吉久登さんが創業した和菓子店。代々、地域振興に携わってきた吉久家。美術愛好家の父・久蔵と泉田が懇意だったことから店内にも作品が展示されています。現在は登さんの息子、磨さんが店主を務めています。

楽しみながら学び続けた魚の研究者

つだ たけ み  
**津田武美** 1923~2010  
Takemi Tsuda

1923(大正12)年、射水市(旧・新湊市)生まれ。師範学校卒業後は理科教員に。教職と並行し、地元ならでのこととして魚の研究をはじめます。射水市・高岡市の各小中学校長を経て1984年退職。40年間の小中学校教員生活の終わりに、これまでの研究の集大成といえる『原色日本海魚類図鑑』を発行。「感動する心を持って自分にもできそうなことを、計画的に継続して行うことが学問をする上では大切」という津田の一貫した姿勢が伝わってきます。様々な魚を精細なイラストにするにあたり、ウロコやヒレなどは全部数えて記録。40年あまりの間に677尾のハリセンボンの針の数を数えたそう。富山湾のものはほとんどが幼魚で「最多は492本、最少は250本。平均して353本で、千本にはほど遠い数」と言い切る圧倒的な観察量に驚かされます。さらに、生来の好奇心で言い伝えや民話を徹底的に調べており、雑学やコラムも豊富。楽しみながら学ぶ姿勢を自ら体現した教育実践者であり、地域が誇る魚の研究者でした。



ウロコの数からひれの微妙な位置まで正確に描写された日本産魚類774種が収録された津田武美の研究の集大成ともいえる図鑑。地域によって変わる魚名や諺、民話や調理法などを可能な限り記載。

**原色日本海魚類図鑑**

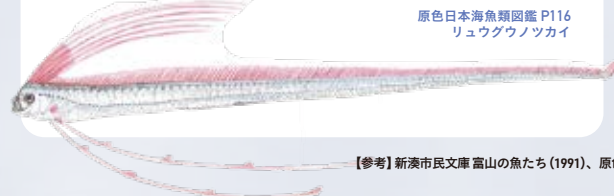
「富山湾の人魚」

原色日本海魚類図鑑 P112 サケガシラ



原色日本海魚類図鑑には、地域によって変わる名前や、文学の中の魚、食べ方まで様々なコラムが掲載されています。中でも「フリソデウオ亜目」の数ページに渡って紹介された「人魚」には津田の審美眼と探究心が滲み出ています。富山湾では「おいらん」や「おいらんたっちょ」と呼ばれる「サケガシラ」、そして「おいらんたっちょの親」と呼ばれる「リュウグウノツカイ」が、日本海における人魚の正体であると、様々な文献や各地の研究者の書簡を引用し結論づけています。小川未明の童話『赤いろうそくと人魚』からイメージを膨らませつつ、「サケガシラ」を試食。「その赤い鱗を切りとる。身は白い。煮ても焼いても。ろうのようにとけてしまった。刺身にしても、くにゃくにゃしてきみが悪く、不味くて、とても食べた代物ではなかった」と結んでいます。

原色日本海魚類図鑑 P116 リュウグウノツカイ



**新湊漁業協同組合** Map C-1

研究に際し、珍しい魚を分けてもらうために、津田が足繁く通った新湊漁協。庄川が刻み込んだ深い海谷に恵まれた最高の漁場を臨む、富山湾の中心的漁港です。古くから漁業のまちの隆盛を支え続け、現在でも漁獲量や魚種の多さは県内随一です。

光の求道者  
スタンドグラス作家



大伴二三彌 略歴

- 1955年 大伴スタンドグラス研究所設立
- 1967年 東京東和画廊でスタンドグラス展開催
- 1972年 東京駅「天地創造」(原画: 福沢一郎) 制作
- 1978年 壁画「群像・人と獣」(原画: 福沢一郎) 制作
- 1981年 新湊市中央文化会館ホール「陽光」制作
- 1983年 日本スタンドグラス協会会長就任
- 2006年 作品、関連資料、絵画等を射水市に寄贈
- 2007年 大伴二三彌スタンドグラス記念館開館

おおも ふ み や  
大伴二三彌 1921-2006  
Fumiya Otomo

1921年、射水市(旧・新湊町)八幡町生まれ。書画の好きな父・晃(医者、放生津八幡宮宮司)の影響を受けて育ち、幼い頃から絵を描くのが好きだった大伴少年。大阪機械技術専門学校を卒業後、安井曾太郎らに油彩画を学び、早稲田大学工芸美術研究所で工芸彫刻を、通産省工芸指導所で産業デザインを研究しました。1951年、マチス展のスタンドグラスに感銘を受けて以降、日本のスタンドグラス作家の草分けとして活躍。福沢一郎や難波田龍起ら洋画家との共同制作から、次第に抽象性の強い独自の様式を打ち出すようになります。

「北日本の陽光は、太陽の国メキシコに決して劣らない」と、自然の光を通したスタンドグラスの、人を惹きつける力と美しさに誰よりも魅了され、多くの人々にその魅力を伝えるため日々想いをめぐらした光の求道者。JR 東京駅「天地創造」、池袋サンシャインシティ「群像・人と獣」をはじめ全国各地の公共施設、大学、教会などに数多くの作品が残されており、時間や天候によって千変万化の表情で私たちを迎えてくれます。



神楽橋 Map B-1

もとは内川に流れ込んでいた神楽川を改修し、昭和初期に架けられた橋。1985年竣工の欄干「ニジのかぐら橋」は、曳山の車輪、魚、花など72枚のスタンドグラスで装飾されています。



高周波文化ホール Map B-1

ホール吹き抜け空間の天井を彩る大迫力のスタンドグラス「陽光」(1981年完成)。放生津八幡宮祭の曳山・築山行事の曳山13本、海老江加茂社祭礼曳山車3本の標識を配した郷土愛の結晶のような作品です。



大伴二三彌 スタンドグラス記念館 広域図

射水市新湊博物館が収蔵する大伴二三彌作品の常設展示施設として、2007年、櫛田神社境内に開館。「森のオキテ」「追憶の杜」をはじめ約40点の作品が展示されています。



日本一の相撲彫刻家

は せ が わ よ し お き  
長谷川義起  
1892-1974

高岡古城公園  
「闘技」

射水市(旧新湊町)生まれ、地元の石黒医院(院長は石黒伯で宗麿の父。6~7ページ参照)で看護婦見習いをしていた時に、東京女子医学専門学校(現・東京女子医大)の存在を知り、給仕募集に応募し17歳で上京。書生として働きながら勉強し、入学資格を得て晴れて入学。卒業後は病理学を研究し、助教授に。ドイツ留学を経て38歳で博士号を取得。全国で14人目、富山県では初の女性の医学博士となりました。58歳で緑内障を患い、研究の第一線から離れ、厚生を中心に医学生や教授を支え続けました。

県民初の女性医学博士

さ と う  
佐藤 忍  
1898-1964



京都府綾部に生まれ、櫻井女塾(現・昭和女子大学)で英語を学び、のちに婦人参政権運動に関わりました。結婚を機に射水市へ。高校教諭として新湊高校等に勤務する傍ら「港短歌会」を設立。歌人・前田夕暮に師事し、清烈な短歌を創作。卓抜した詩的発想で多くの人々を魅了し、著名な歌人や詩人からも賞賛されています。

射水市生まれ、東京美術学校(現・東京藝術大学)彫刻科で高村光雲、沼田一雅に師事し、首席で卒業。官展・日展を舞台に活躍しました。多くの作家が女性美を追求する中、スポーツ選手の極限状態にある身体の動きを徹底的に観察・研究し、それを表現することに真骨頂を発揮。大相撲関係で特に優れ、「日本一の相撲彫刻家」と称されました。

真の美を探究した  
シュルレアリスム画家

もりひろゆき  
森弘之 1929-1996



雷の漁港

射水市生まれ、太平洋戦争末期、特攻隊員として幾度も死の淵を覗く経験をしました。復員後、地元の大手鉄鋼会社で機械設備の設計などに従事する一方、寸暇を惜しんで水彩画の制作に取り組み、美術界の「芥川賞」と称される安井賞展で連続入選するなど高い評価を受けました。旧新湊漁港(新湊西漁港)や内川によく足を運び、港や船、その周辺の建屋を題材にいくつもの水彩画を残しました。

詩情豊かに  
活動し続けた歌人

たかまつみつよ  
高松光代  
1909-2006



立町公園  
Map B-1

# DOUZO-DOUZO

銅像 どうぞ

坐像で騎馬像、あたる同時に楽しむ



室町幕府・10代将軍

あしかがよしき  
**足利義材**

放生津橋

1466年生まれ。24歳で10代将軍に就任。

1493年クーデターにより京都の龍安寺などに幽閉され、鳥流しになるところを脱出し越中へ。当時放生津城主であった神保長誠の城近くの寺を義材の拠点とし、約5年を放生津で過ごすとともに、政権（「放生津幕府」）を樹立しました。逃亡中とはいえ最高の真人である当時 27歳の義材を、北陸の大名たちが続々と参礼し、忠誠を誓いました。放生津での在期間中、義材のもとを京都の歌人らが頻りに訪ねてきては歌会が催されていました。これが放生津界隈の文芸の土壌を確実に育み、越中の芸術・文化の振興・発展にも大きく貢献。その後、名前を義植と改め、越前や中国地方を転々としたが機を逃さず将軍に返り咲きました。さらにその後は重臣と対立し都を出奔。波乱万丈の人生を送りました。

Map B-1



Map B-1  
うおたきたろう  
**放生津八幡宮 卯尾田毅太郎**  
1894-1945

県議会議員を経て新湊町長に。東町・荒屋大火の復興、新湊漁港の修築事業の推進、商船学校第三次廃校問題阻止、庄川堤防決壊水害の復興などに尽力。実業界では、新湊商工会会長をはじめ地元企業の社長や理事長を歴任。1937年からは衆議院議員として政治手腕を発揮したものの、1945年6月16日午前2時、米軍 B-29 から投下された機雷の中町での大爆発により戦災死。

第5代新湊町長



1967年、(当時の)新湊町長・内藤友明が建立



消防士

やしま いっぺい  
**八島逸平** 1877-1953

18歳で消防士となり 50年の長きにわたって新湊エリアの消防の発展に尽力した八島逸平。火災や水難が起きると果敢に行動し、身を挺して住民を守り抜いた多数の功績が。正義感強く人情に厚い人柄を偲んで、1966年の新湊消防署新設の際に建てられた銅像です。

あなめしむ誇りあきてこの国の繁栄史ここに書きかえむとす

Map B-1  
高周波文化ホール



第5代新湊市長

ないとうともあき  
**内藤友明**  
1894-1992

新湊消防署入口からまちを見守ってくれてます



Map A-1  
新湊消防署

新湊町松嶋跡(新湊町観光駐車場)の一角に、このもりとむた木に寄り添うように建っています

初代・第2代新湊市長

すぎもとへいた  
**杉本兵太 奈呉町観光駐車場**  
1890-1970

戦時下の8年あまり(1942~1951)の間、高岡市と強制合併状態にあったことから、町を二分する論争の末、高岡市より分離します。このとき新湊町長に就任したのは医者で人望厚く、市制施行のため初代新湊市長となり、渦周りを含む7つの村(作道、七美、本江、海老江、堀岡、片口、塚原)との合併も成し遂げました。

1932年から新湊町議会議員、1947年から10年間衆議院議員を務めたのち、1967年から3期12年にわたって新湊市長に。富山新港開港に際し、難航していた用地買収や反対の大きかった港口切断などの課題を、住民への説得を続けて解決しました。富山新港西埠頭の一角に、開港を記念して詠まれた内藤の歌碑が建っています。

開港記念碑  
緑地広場 Map D-1



Map B-1

# 地域の有名人ゆかりの「鳥」を探せ!

# 新湊散歩新聞

発行所  
新湊歴史ストリアチーム  
射水商工会議所  
魅力発信プロジェクト  
(事務局) 射水商工会議所

号外

ゆういち

地域に詳しい  
姉弟といえは

## 雷鳥

ロケ地めぐり

姉弟ともに越野医院で産まれたというきょうだい芸人・雷鳥(らいちょう)のお姉ちゃん

とゆういち。お姉ちゃんの最初のお散歩の記憶は2歳の時。弟が産まれる日に、おばあちゃんに手を引かれながら中川餅店に餅を買いに行つたこと。「さつと弟が産まれる」という嬉しい記憶が残っているそう。地元メディアやSNSなどで日々地域情報を発信している雷鳥。関連する作品のロケ場所を紹介する。

## 幼い頃、弟と餅の記憶

映画『人生の約束』

渡辺鉄也役の江口洋介さんの弟分・中村幸一役でゆういちが出演。お姉ちゃんは方言指導。【番屋カフェ】漁師が集まる作業場所。番屋として撮影。入口右側に貼つてある写真の中に、ゆういちの俳優姿が拝める。【内川沿いの坂道】漁から戻ってきた江口さんとゆういちの船が通つた瞬間に、藤岡小百合役の小池栄子さんが可愛い富山弁を喋つて歩く楽しいシーン。

漫画『未来のムスコ』

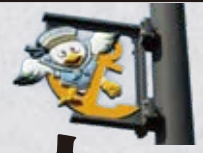
雷鳥が方言監修。作品中に実際の雷鳥としても登場。主人公が新湊出身なので、帰省などのシーンで内川周辺が出てくる。【川の駅新湊】ソフトクリームを食べているシーンがある。

月9ドラマ『恋仲』

第一話にゆういちが船修理工として出演し、最終話には夫婦役



カモンちゃんを探せ!



## 湊町を代表する キャラクター カモメ

旧新湊市のマスコットキャラクター「カモンちゃん」は、セーラーを着たカモメ。市内出身で漫画『美味しんぼ』の絵を担当している花咲アキラさんデザインのもの。合併し射水市となつて20年。今もまちの中で見かける。



演歌「新湊慕情」

歌手・香西かおりさんの歌う「新湊慕情」は、市内出身の作曲家・聖川湧(ひじりかわゆ)さんの作。下カモメ波止場の「新湊」など実際の地名が次々に登場する。曲の良さを再認識し、地域の魅力を広める機会にと、おきがえKIPPOでは、採点なしで「新湊慕情」だけを最後まで歌いきる、地元愛いっぱいのカラオケ企画が開催されていたことも。



映画『僕のお風呂が熱くて埋蔵金が出てラーメンが美味い。』

銭湯を営む本江家の嫁役としてお姉ちゃんが銀幕デビュー。方言指導も行った。ゆういちも町民役で出演。【四十町曳山蔵】重要な場所として登場(14ページ参照)。

英語でスパロー

## 当地グルメ スズメ

1953年創業の麵処「スパロー」には、地元出身の落語家・立川志の輔(たてかわしのすけ) 師匠も通つて食べた思い

## 立川志の輔師匠 思い出の味

出の味が、昆布やカツオをブレンドした和風だしベースのスープに、中華麺を入れた地元グルメ「かけ中」に、牛肉と白ネギを加え、カレー粉やスパイスで作つたところみのある特製カレーを注いだ「カレー中華」ははまる人続出の

一品。長年愛されてきた地元グルメの王道だ。

麵処スパローの「カレー中華」



A

B

C

D

1

2

3



店内の至る所に牧宥恵さん（参照 14ページ）の作品が。地元の美味しい料理とともに楽しみたいだけです。



東屋の傍らに、高松光代の歌碑が佇んでいます。



！ 歴史ヒストリアチーム、とっておき！  
もっと作者を感じる方法



1 「ある」  
を認識する

日々の私たちの暮らしは、多くの先人たちの功績の上に成り立っています。今、そこに「ある」「存在している」ということはすなわち、そこにそれを作ろうとした人の意思があるのです。いつも前を通る建物、何気なく目に見えているモニュメント…そこには必ず、人の思いやエネルギーが込められていることを感じましょう。実は「ある」というだけですごいこと。すべてが「有り難し」です。



2 知っているものを  
「みなおす」

北陸の光の角度や色を研究し尽くしたステンドグラス作家、手の造形に人や社会のあり方を問いつける彫刻家、富山湾の魚を調べまくった研究者…達人たちの活動の結晶は、知れば知るほど奥深いもの。「昔から知ってる」ものこそ、作者を思い浮かべながら改めて見てみましょう。作品や資料がぎっと饒舌に語り始めるはず。ものを介した作者との対話を楽しみましょう。



3 つながりを  
「かみしめる」

先人たちが求め、使い、伝えてきたものが私たちの思考や感性のベースを作っています。どんな偉人も、地域の建物や祭り、普段何気なく目に見ていたものなど、先人たちの行動から確実に影響を受け、自ら感じて動くことで新たな波紋を生み出してきました。改めて、この壮大なリレーをかみしめましょう。そのパトンは思わぬところで受け渡されるかもしれません。

資料や書籍から先賢たちの素晴らしい功績を垣間見ることができます。市井で研究や活動を貫いた人々の努力の結晶は既に絶版であることも少なくないので、閲覧できる場所はとても貴重です。博物館では購入できる書籍やグッズも。図書館には郷土ゆかりの本コーナーがあるので是非チェック！



射水市新湊博物館 Map B-3  
ミュージアムショップ



射水市新湊図書館 Map B-1  
(高周波文化ホール 2F)



新湊歴史ヒストリアチーム  
リーダーの一枚

芸術品のコラボ

内川には東橋、山王橋、神楽橋などの個性的な橋が多くあります。その中でも山王橋は、彫刻家竹田光幸氏の4基の手像大理石「人」「心」「愛」「夢」と名付けられた彫刻が配置されており、その横を新湊が誇る13基の曳山が通り芸術作品のコラボを見ることが出来ます。特に圧巻なのが提灯山と彫刻が内川に映り込む光景は、息をのむ程美しく見る者を引き付けます。但し花山と提灯山は巡行が一年交代なので、確認のうえ両方とも見に来て下さいね。

歴史調査に何うと、「獅子舞の天狗役の名人」「曳山囃子の笛の名人」という、様々な名人たちの話に接します。名人の残した技術・作品・資料が後代に伝えられていくことは、過去の名人はもちろん、次の世代を担う私たちにとっても幸せなことです。この冊子を通じて、射水・新湊がさまざまな名人たちの宝庫であることを知っていただければ幸いです。



協力  
松山 充宏



射水市 新湊博物館 定休日 火曜、祝日の翌日  
所在地 射水市鏡宮299 TEL 0766-83-0800  
開館時間 9:00~17:00 (入館~16:30)

あとがき この人が居たから。

今回紹介させていただいたのは、生来の才能に加えてたゆまぬ研鑽を積んでこられた方ばかり。ほとんどの人が直接会ったことのない人なのに、苛烈な生き方、純粋な探究心に何度も目頭が熱くなった。歳月を経た今、その活動の結晶としての「もの」や「こと」にふれられるということは、なんとありがたいことだろうか。幾多の時を経て、強さやあたたかさを蓄えた本物が、こんなに近くにあったなんて！ 10冊目にしてようやく、日頃見えていた石碑や銅像の見方が少し変わったような気がしている。刻まれた全てのメッセー

しみなと歴史ヒストリア  
プロジェクトリーダー 吉久 磨

石と意志



しみなと歴史ヒストリアも10巻目という節目を迎えました。これもひとえに多くの方々  
の理解と協力があつたからと深く感謝いた  
します。さて、ヒストリアを進める中で幾つ  
かの共通点がある事に気づきました。

ひとつは、この地域は古くから豊かであった事、もう一つは、歴史は古いがそれを象徴するものが少なく残っているものが石(石碑)しかない事です。委員会の最中に私が「新湊ちゃ石しかないねか」と発言したところ、メンバーの一人が「富山弁の石は、標準語の意志にも聞こえる」と。石と意志？よく分からないがこのまちにとって大切なもののように思える。まちを良くしよう、まちを豊かにしよう、文化を継承しようという強い意志がこのまちを良くしていくように思える。「人は城、人は石垣、人は堀」は武田信玄の言葉であるがAIが進んでも企業もまちも人なりであるように思える。今回は人にテーマを当て先人達の軌跡を辿った。その歴史から我々がどうあるべきかを学び、先人達が残してくれた豊かなまちを、次の世代その次の世代へと引き継いで行くことが、今を生きる我々の使命なのかもしれない。このまちから日本や世界で活躍する人が数多く生まれることを期待します。長きに渡りありがとうございます。



事務局 買場 啓太、千石 和佳奈

今回の第10弾の発行をもって最終回となった新湊歴史ヒストリア。まずはこれまでご愛読くださった皆様へ厚く感謝申し上げます。このヒストリアは新湊の歴史・文化を後世にわかりやすく残そうという思いで立ち上げ、第10弾まで発行することができました。最終回は新湊の文化を築き上げてきた「人」がテーマ。歴史上の人物から近代のなじみある人物まで、多くの人の思いが混ざり合うことによって新湊の文化が出来上がってきたのだと感じました。「新湊歴史ヒストリア」はこれで終わりとなりますが、この巻を通して新湊に息づく人の思いや情熱を感じ取り、この地の歴史に誇りを持つきっかけとなれば幸いです。

ジに、そして、それを作ろうとした人がいたことに、遅らせながらめちやくち感動している。どれも思った以上に饒舌に語りかけてきて、びつくりするほど親しみやすく、どこまでも好ましくて、みんなめちやくちかっこいい！ 残されたものを介して、その人や関係者と時間や空間を越えて対話しているみたいで楽しい。出会った人だけでなく、その人に影響を与えたり伝えようとして努力したりと、すべてのもの・ことに人が介在しているのだ。様々な人のおかげで今がある。縁奇。すべてはつながっているなあ。

